

# 太宰府市俳句ポスト第百三回入選者

(令和元年五月十一日～令和元年八月七日)

選者 阿比留初見

## 入選句

ついでりまだ空に気配のありながら (福岡市) 下原口 允子

しつとりと巫女の黒髪梅雨に入る (福岡市) 白井 道義

春の日に令和記念の二人旅 (長崎県) 杉本 祥

人声も弾める小径ほととぎす (春日市) 永利 五十鈴

空蟬の数多すがれる御神木 (福津市) 柴田 佳津子

巫女涼し胸の高さに物運び (福岡市) 三木 照子

苗床を運ぶ男の腕光る (春日市) 原 幸雄

梅雨晴のきらめく流れ音清し (太宰府市) 金丸 恵子

献上田水なみなみと田植待つ (太宰府市) 座親 フミ子

梅雨しとど母にしばしのティータイム (太宰府市) 池田 喜久美

北谷の宝満宮や雲の峰 (太宰府市) 楠田 誠

万緑や歴史秘めたる万葉碑 (太宰府市) 瀧田 緑

礎石野の広さに春日ゆきわたり (筑紫野市) 横山 美恵子

雨を乞ふ心紫陽花色を濃く (春日市) 西津 稔勝

神苑の梅雨の匂ひを探り行く (福岡市) 岡村 礼子

太宰府の夏の町なみ美しい (那珂川市) 元村 凜音 九歳

たいこぼし緑にかこまれすてきだな (佐賀県) 徳淵 愛奈 十歳

夏近い太宰府参る合格祈願 (福岡市) 高原 璃里 十一歳